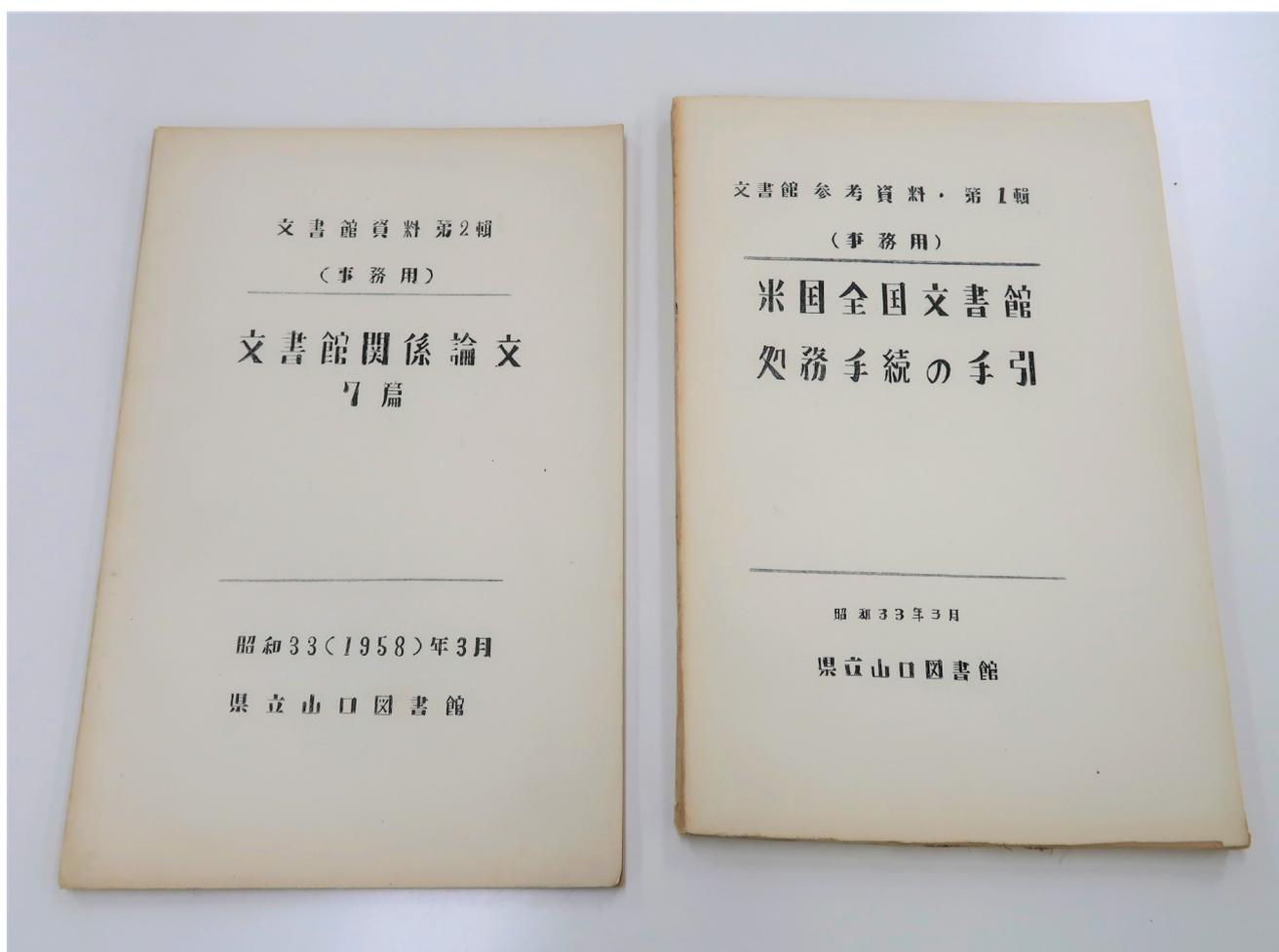


令和5年(2023年)度第4回 資料小展示(R05. 7/1~30)
山口県立山口図書館開設120周年記念事業関連小展示

文書館「はじまる」

～前史としての山口図書館～



『文書館関係論文7編』および『米国全国文書館処務手続の手引』
昭和33年(1958)3月、山口図書館がみずから翻訳・印刷したもの



旧山口図書館の建物(文書館は3F)



山口図書館長鈴木賢祐(当時)

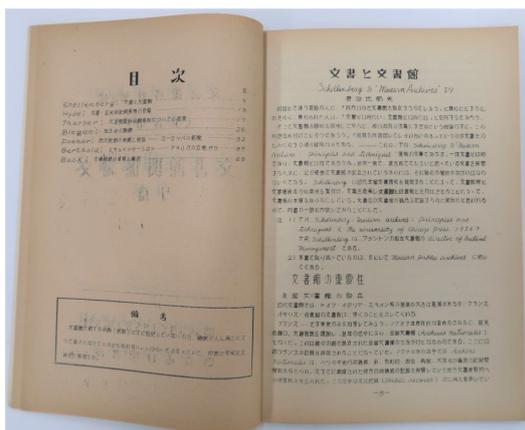
◆昭和34年(1959)4月、山口県文書館は、日本で最初の公立アーカイブズとして開館しました。県への「毛利家文庫」寄託(昭和27年)が大きなきっかけでしたが、同時に、明治末年以降、郷土史料の収集・保存・公開に力を注いできた県立山口図書館の活動が前提にありました。

◆昭和33年3月、山口図書館長鈴木賢祐(当時)および図書館員たちは、アーカイブズに関する外国の文献をみずから翻訳し、『文書館関係論文7編』および『米国全国文書館処務手続の手引』を作成しました。諸外国のアーカイブズ制度を学ぶためでした。まだアーカイブズという考え方自体、日本ではほとんど知られていない時代のことです。

◆アーカイブズへの理解を深めた図書館員たちは、山口県にアーカイブズをつくるという「山口県文書館の構想」をつくりあげ、それが県文書館設置へとつながりました。

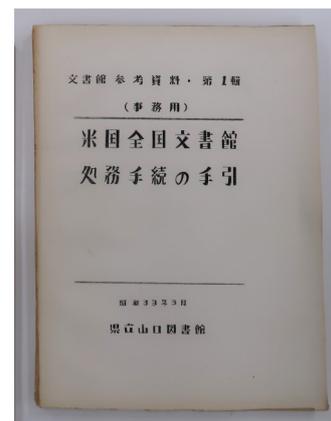
◆今月は、県文書館が「はじまる」きっかけともなった、山口図書館によるアーカイブズ研究、その成果を示す『文書館関係論文7編』および『米国全国文書館処務手続の手引』を紹介します。

◆山口県立山口図書館開設120周年記念事業に合せた小展示です。



「文書館関係論文7篇」収録論文

- ①Shellenberg「文書と文書館」
- ②Hyde「文書・歴史的記録業務の完備」(1939)
- ③Thurber「文書館資料目録規則についての提案」(同)
- ④Blegen「地方史の課題」(同)
- ⑤Posner「地方記録の保護と保存—ヨーロッパの経験」(1940)
- ⑥Berthoid「ドキュメンテーション—アメリカの立場から」(同)
- ⑦Buck「文書館員の資質と養成」(同)



米国全国文書館処務手続の手引

アメリカ国立公文書館が1952年に編さんした業務用ハンドブック「National Archives Handbook of Procedures」を翻訳したものです。

第1章「組織及び内部監理」第2章「記録の処理」第3章「保存および整理」第4章「ディスクリプションおよびパブリケーション」第5章「参考サービス」となっています。

『文書館関係論文7篇』

山口図書館員が、1939～1940年に発表された諸外国の文書館関係論文7編、①Shellenberg「文書と文書館」②Hyde「文書・歴史的記録業務の完備」③Thurber「文書館資料目録規則についての提案」④Blegen「地方史の課題」⑤Posner「地方記録の保護と保存—ヨーロッパの経験」⑥Berthoid「ドキュメンテーション—アメリカの立場から」⑦Buck「文書館員の資質と養成」を翻訳したものです。

『米国全国文書館処務手続の手引』

アメリカ国立公文書館が1952年に編さんした業務用ハンドブック「National Archives Handbook of Procedures」を山口図書館員が翻訳したものです。第1章「組織及び内部監理」第2章「記録の処理」第3章「保存および整理」第4章「ディスクリプションおよびパブリケーション」第5章「参考サービス」となっています。

「山口県文書館の構想」

『山口図書館だより』（1957年／1950年代教育278）に「山口県文書館の構想」が掲載されました。アーカイブズ制度を学び、山口県でのアーカイブズ（文書館）設置構想を文章化したものです。県庁文書についても、「県庁文書課の保存文書を保管転換し、今後も引きつづき受入れ集中管理する計画」とされています。

山口図書館長鈴木賢祐（すずきまさち）

鈴木賢祐は山口県吉敷郡小郡町出身、昭和25年5月から34年3月31日まで第4代山口図書館長を務めました。昭和戦前～戦中期、大阪府立図書館、和歌山高等商業学校（図書課）、上海近代科学図書館、満州国立中央図書館などに勤務しています。和歌山高商時代には海外文献の翻訳にも携わっており、彼のそうした経歴が、外国の文献からアーカイブズ制度を学ぼうとする姿勢につながっていると考えられています。

